

大衆文化の発展（ヨヘイ画集）



（上から）

* 斉藤家文書（徳地町）74「コドモ」

* 斉藤家文書（徳地町）52「ヨヘイ画集 愛らしき少女」

解説

明治時代末期から大正時代にかけて、都市の発展と知識人の増加を背景に、活字文化が普及しました。新聞、雑誌も部数を伸ばし、子供向けの童話や童謡も広がりました。

写真上は、渡辺与平の画集『コドモ』の中の作品です。この画集は、子ども向け月刊誌『兄弟』と『姉妹』に彼が描いた挿絵を集めたものです。

渡辺与平は雑誌の挿絵を得意とする人気作家でした。1889（明治22）年、長崎県に生まれ、大正ロマンを代表する竹久夢二のライバルとも目されていましたが、1912（明治45）年に22歳の若さで病気で亡くなりました。

写真下は『ヨヘイ画集 愛らしき少女』の中の作品です。この画集は彼が少女雑誌『少女の友』に描いた作品を集めたもので、彼の死を追悼して、1913（大正2）年に出版されました。

彼の作品から、新しい時代の息吹を感じ取ることができます。

* 斉藤家文書には、雑誌『少女の友』などの口絵の切り抜き集があります。渡辺与平のほか、竹久夢二、高島華宵ら人気作家の作品が切り抜かれています。毎号の雑誌から気に入った作品を楽しく切り抜いて集めたのでしょう。斉藤家文書73「雑誌挿絵切抜集」・同文書75「[雑誌]口絵集」。